

吉田雄人・横須賀市長マニフェスト 進捗状況 外部評価 報告書

平成 23 年 5 月

吉田雄人・横須賀市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会

はじめに

吉田雄人・横須賀市長のホームページには、マニフェストの理念として「「あれもこれも」ではなく、「何でも反対」でもなく「あれかこれか」を提案します！」と明記されている。

また、ビジョンとして「政治には、ビジョンが必要です。口当たりのいい言葉、耳触りのいいことばかりではなく、20年後を見通したビジョンが、必要なのです」と記し、つづいてポリシーを「ビジョンを実現するためには、政策が当然必要になってきます。ビジョンの無い政策に未来はありませんが、同じように政策の無いビジョンは絵に描いた餅に過ぎません」と言及している。

上記の理念を体現したのが、マニフェスト「チェンジ。やればできる！」である。吉田雄人氏は、このマニフェストを掲げて2009年6月に当選した（任期は2009年7月10日から）。同マニフェストは10行政分野（207事業）から成立している。

一般的に、マニフェストは自己評価が第一義的に重要である。しかしながら、自己評価だけでは自画自賛に終始してしまう可能性がある。

そこで、今回、学識者6名から構成される「吉田雄人・横須賀市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会」を立ち上げた。そして、外部評価による吉田雄人・横須賀市長の過去2年間におけるマニフェストの評価を実施した。

今回の評価は外部評価6名が、それぞれの専門分野の知見をいかして実施した。また、外部評価は合議制を採用し、評価の客観性を担保するように努めた。なお、評価代表者の牧瀬稔を除く評価者の5名は、横須賀市とは関係がない。その意味では、提示された客観的な資料をもとに、適正かつ独立性の担保された評価が行われたと考える（なお、牧瀬は横須賀市土地利用調整審議会の委員をしている）。

今回の評価結果を明示することで、今後の行政運営の一つの責任を果たしてほしい。そして評価結果が、横須賀市民の福祉の増進に向けて、よりよい行政運営を展開する一助となれば幸いである。

吉田雄人・横須賀市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会
評価代表者 牧瀬稔

1 評価方針

(1) 評価対象

吉田雄人・横須賀市長が提示した「チェンジ。やればできる！」(以下「吉田マニフェスト」と称する)は、下記の10行政分野から成立している。そして10行政分野には、それぞれ具体的な取り組みが記されており、合計207事業ある。今回は、この207事業すべてを評価対象とした。

自然・環境「水や緑に親しめる横須賀へ」(34事業)
医療・福祉「いのちを大切にする横須賀へ」(39事業)
教育「ハコモノづくり」から「人づくりの横須賀へ」(25事業)
地域経済の活性化「まずは、雇用。そして循環する経済を！」(38事業)
地域自治・市民活動の活性化「市民が主役のまちづくり」(16事業)
市民サービスの活性化「市民の役に立つ所(市役所)」(11事業)
市長の姿勢「熱い想いで、全力投球するべきです！」(7事業)
財政の再建「将来につけを残さない財政を」(18事業)
市役所の改革「市民の声を聴く市役所に！ 相談できる市役所に！」(13事業)
「議会マニフェスト」を明らかにします(6事業)

(2) 評価材料

吉田マニフェストの評価は、以下の順序により実施した。

207事業につき、行政計画の位置づけ、事業内容、主な取組実績(平成21年度・平成22年度)などの観点から評価を実施することとした。

の記載事項に関する横須賀市からの提供資料により評価を実施した。また適宜、各評価者が市ホームページ等で評価するための資料等を別途入手している。評価実施後、各事業について疑問がある場合は、「横須賀市マニフェスト評価質問事項」(資料1)により横須賀市に問い合わせた。その後、横須賀市から「マニフェスト回答まとめ」(資料2)が提示され、そのまとめを参考にして、再度、各評価者が評価を実施した。

なお、関係資料のもと評価を行うにあたり、不明な点、詳細な説明等を必要とする事項などが生じた場合、市関係部局へヒアリング等の後追い調査をすることも想定していたが、評価期間等の都合により実施できず、評価委員会と横須賀市の間での文書のやりとりという形態になった(資料1と資料2)。

(3) 評価方法

今回の評価は、「吉田雄人・横須賀市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会」を組織し実施した。外部評価委員会の構成員は以下のとおりである。

- 遠藤洋路・株式会社社青山社中共同代表
- 金子林太郎・敬愛大学経済学部准教授
牧瀬稔・財団法人地域開発研究所主任研究員
- 茂原純・株式会社 PHP 研究所公共経営支援センターコンサルタント
- 山村俊弘・山村俊弘・日本アプライドリサーチ研究所主幹研究員

評価代表者は牧瀬とし、牧瀬が評価結果をとりまとめた。
肩書は2011年5月現在である。
評価者の1名から匿名希望があったため、上記には記していない。

各評価者が各項目について、6点満点で裁定した。その後、適宜、評価者の間で合議を実施し、最終的な評価の結果を決定した。

2 評価基準

評価基準は2つ設定した。第1に各項目中に掲げられた「施策・事業」を対象とした（評価基準 ）。そして、第2に各項目中に掲げられた「条例」の制定に関する項目である（評価基準 ）。

下記にある基準は、あくまでも評価の目安であり、具体的な取組み開始状況やその後の実施状況等を総合的に考慮して、各評価者の判断で評点を算出した。

評価基準（各政策中に掲げられた「施策・事業」）

評点	基 準
0点	施策・事業に着手していない段階、かつ予算等の措置を講じていない段階
1点	施策・事業に着手した段階、または予算等の措置を講じた段階
2点	施策・事業の4分の1程度を達成したと判断される段階
3点	施策・事業について、2分の1程度を達成したと判断される段階
4点	施策・事業について、4分の3程度を達成したと判断される段階
5点	施策・事業をほぼ達成したと判断される段階

評価基準（各政策中に掲げられた「条例」の制定）

評点	基 準
0点	全く検討していない段階
1点	検討のための組織（検討委員会等）を設置し、検討を行っている段階
2点	条例素案を公表した段階・パブリックコメント手続を実施している段階
3点	条例案を議会に提出した段階（否決された場合を含む）
4点	条例案が議会で可決された段階（軽微な修正があった場合も含む）
5点	条例が施行された段階（条例施行）

本評価では、項目に着手しただけでは1点以下という評点としている。これは、マニフェストに掲げられた事項は着手にこぎつけることが重要なのもちろんであるが、最も重要なことは成果を上げること、すなわち、掲げられた項目を実現することにあるからである。

この点は、国政における民主党マニフェストの評価や他の首長等のマニフェスト評価の視座と異なり、一見すると、個別評価、全体評価を通じて、辛目の評価という印象を受けるかもしれない。しかしながら、外部評価委員会の真意は、横須賀市民のための政策を着実に遂行する市長の使命にかんがみ評価することである。市長、議員、市民及び関係者におかれては、評価結果を精査するに当たり、ご留意願いたい。

3 評価結果

以上の評価方針および評価基準に基づき、評価者により得られた結果（外部評価委員会の結果）は、以下のとおりである。

(1) 個別評価

個別評価の結果は、「吉田雄人・横須賀市長マニフェスト評価結果」（資料3）のとおりである。詳細は、そちらの資料を参照していただきたい。（なお資料3には、横須賀市から提示のあったマニフェストの進捗状況も記してある。この横須賀市から提示のあった「マニフェストの進捗状況」をもとに、各評価委員が基準に基づき評点をつけた）。

(2) 総合評価

各評価者の平均点により総合評価を求めた。その結果、1035点満点で **614点** であり、マニフェストの達成率は **59.3%** となった（100点満点で59.3点と捉えてもよい）。各項目の結果は下記のとおりである。

	事業数	合計点	点数	達成率
自然・環境「水や緑に親しめる横須賀へ」	34	170	105.8	62.3%
医療・福祉「いのちを大切にす横須賀へ」	39	195	110.5	56.7%
教育「ハコモノづくり」から「人づくりの横須賀へ」	25	125	77.5	62.0%
地域経済の活性化「まずは、雇用。そして循環する経済を！」	38	190	112.8	59.4%
地域自治・市民活動の活性化「市民が主役のまちづくり」	16	80	44.2	55.2%
市民サービスの活性化「市民の役に立つ所(市役所)」	11	55	28.0	50.9%
市長の姿勢「熱い想いで、全力投球するべきです！」	7	35	27.2	77.6%
財政の再建「将来につけを残さない財政を」	18	90	49.8	55.4%
市役所の改革「市民の声を聴く市役所に！相談できる市役所に！」	13	65	33.0	50.8%
「議会マニフェスト」を明らかにします	6	30	25.2	83.9%
評価結果	207	1035	614.0	59.3%

吉田マニフェストにおける事業展開の評価対象期間は、平成 21 年度・平成 22 年度という 2 年間である。評価対象期間が、過去の 2 年間ということを見ると、この評価結果は及第点が得られていると判断される（1 年目で 25 点、2 年目で 50 点がとれれば及第点である）。今回の「59.3 点」という数字は、決して悪い評価ではないということを付言しておく。

しかしながら、今回の評価結果には、少なからず課題もある（今回、明らかになった課題は残りの 2 年間の行政運営に向けたヒントとなる）。まずは、行政分野により、大きな差がでている点である。さらに、各項目について、おおむね高得点が得られているが、中には「1 点」以下が散見される。このことについては真摯に捉え、今後の行政運営及び次のマニフェストに反映させていかなくてはならないだろう。

マニフェストを評価する一つの視点として、見込みの甘さなども顕在化できることがある。すなわち、点数の低い「1 点」以下は、やや見込みの甘さがあったと捉えることも可能である。そして、これらの評価結果をいかすことにより、今後の行政運営及び次のマニフェストを検討する際に大いに貢献するだろう。

その意味では、マニフェスト通り実施できないことをマイナス視するのではなく、できなかったことを「なぜできなかったのか」と検証するために役立てることが大事である。その意味では、明快な説明責任が問われることになる。

最後に、マニフェストは、過去の行政運営のモノサシとして活用することが大切である。そして、マニフェストを単なる評価に終わらせるのではなく、PDCA というサイクルを参考として、マニフェストサイクルを意識していくことが大事である。

以上、吉田マニフェストについて、おおまかに指摘したが、総合評価としては、「おおむね良好な結果である」で判断される。ただし、現時点において、点数の低い事業については、よく顧みて、今後の行政運営及び次のマニフェストにいかしてほしい。そして、何よりもマニフェストは市長の任期中に実現を目指すものである。任期満了の日まで、さらに着実かつ積極的な取り組みを期待したい。

おわりに

今回の評価結果は、過去2年間を対象としていることもあり、59.3点となっている。この数字は及第点と判断している。しかしながら、各事業の差は激しい現状がある。つまり、評価の高い事業と評価の低い事業と二極化している。今後は、評価の低い事業を着実に高めていくことと、評価の高い事業については、一層の充実を求めたい。

そして市長に対しては、市政の原動力ともなるべき、マニフェストの確実な実行にさらにまい進されることを強く望みたい。一方で、余談になるが、議会においては、市長マニフェストから漏れている点を提案するような姿勢を求めたい。既存の多くの議会が、この視点が欠如している。

最後になるが、今回のマニフェスト評価を参考として、吉田雄人・横須賀市長は、より一層、横須賀市民の福祉の増進という明確な結果が導出できるよう、さらなる行政運営に取り組んでいただきたい。

平成 23 年 5 月

吉田雄人・横須賀市長マニフェスト進捗状況外部評価委員会